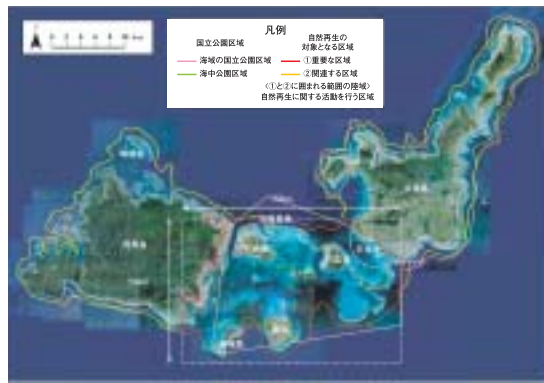


「石西礁湖自然再生事業 環境省 事業実施計画」の概要

1. 実施者の名称及び実施者の属する協議会

環境省九州地方環境事務所那覇自然環境事務所（所属協議会：石西礁湖自然再生協議会）

2. 自然再生事業の対象となる区域



3. 自然再生の目的

概ね5年を目処にサンゴ礁生態系の現状や事業の進捗状況等を評価し、見直ししていく

- モニタリング調査等により、サンゴ礁生態系の現状やその変動等を把握する。
- サンゴ群集の修復等を通じサンゴ礁生態系の回復を図る。
- 全体構想の目標達成に向けた事業の評価手法を確立する。
- 地域住民、産業従事者等が石西礁湖におけるサンゴ礁生態系のしくみを学び、自然再生の取組に参加することで、その効果や意義について学ぶ機会を提供する。

4. 事業実施計画

(1) モニタリング調査

- ①サンゴ群集のモニタリング調査
- ②攪乱要因のモニタリング調査
- ③常時モニタリングシステムによる海況観測
- ④サンゴ被害等の情報募集（一般参加型）



(2) サンゴ群集修復事業

- ①有性生殖法を用いたサンゴ移植
- ②より有効なサンゴ礁修復技術の手法検討



(3) オニヒトデ駆除事業

- ①オニヒトデ分布調査
- ②オニヒトデ駆除



(4) 評価方法の確立

- ①目標の設定
- ②展開すべき取組の各項目における評価手法の検討

(5) 赤土流出防止等陸域対策との連携

- ①関係行政機関等への働きかけ
- ②陸域対策の重要性の周知



(6) 利用に関する負荷対策との連携

- ①利用・保全に関連する規制との連携



(7) 意識の向上・広報啓発

- ①自然観察会の開催
- ②学校教育との連携
- ③持続可能な産業・ライフスタイルの推進



5. 各事業計画の実施スケジュール

事業実施期間は概ね5年程度とし、順応的なアプローチにより評価、見直しを行っていくこととする。

6. その他自然再生事業の実施に必要な事項

- ①ウェブサイトやマスコミを通じた情報発信
- ②国内外の情報収集及び情報ネットワークの構築
- ③石西礁湖内での連携

※協議会、シンポジウムの資料や議事録は、ホームページでご覧になれます (<http://shizensaisei.com/>)

編集
発行

石西礁湖自然再生協議会運営事務局

環境省 那覇自然環境事務所 内閣府 沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課

【住所】〒907-0011 沖縄県石垣市八島町2-27 環境省石垣自然保護官事務所内

【電話】0980-82-4768 【FAX】0980-82-0279

【E-mail】okironc@coremoc.go.jp 【自然再生ホームページ】<http://shizensaisei.com/>

石西 自然再生 礁湖

石西礁湖自然再生 ニュースレター 2008.9

8

島人の宝 豊かな海を 守る

第8回 石西礁湖自然再生協議会が開催しました

自然再生推進法に基づく「石西礁湖自然再生協議会」を平成18年2月に設置し、石西礁湖の豊かなサンゴ礁生態系を取り戻すための取組を進めています。

協議会では、平成20年3月31日をもって第1期委員の任期が満了したことから、再度委員を公募し、第2期委員での活動をスタートしました。今回のニュースレターでは、第2期委員としては初めての協議会となる、第8回協議会の様子をご紹介します。

石西礁湖(せきせいしょうこ)の自然再生を目指す「石西礁湖自然再生協議会」の第8回協議会を、平成20年6月13日(金)に石垣市で開催しました。

今回は、多くの新規委員も参加していたことから、協議会規約やこれまでの活動の流れ等についての説明を行いました。その他には、生活・利用に関する検討部会や国際サンゴ礁年の取組・イベントの報告、また、環境省が作成した自然再生事業実施計画の承認など、充実した内容となりました。また、前回に引き続き、「陸域対策」、「普及啓発」、「資金メカニズム」の3つのテーマに分かれて、自然再生事業の実施に向けたグループディスカッションを行いました。

今回のニュースレターでは、グループディスカッションの様子を中心にご紹介します。

会長及び会長代理就任挨拶



会長 土屋 誠 委員

●琉球大学

石西礁湖自然再生協議会の活動は、私たちが作り上げてきた様々なアイデアを実践する段階に入りました。美しい

サンゴ礁を再生するためには、何か活動をしなければならないという私たちの強い気持ちが大切です。お1人お1人の気持ちが十分に発揮されるような保全活動を進めることができるように努力しましょう。私たちの活動は今後世界のモデルとなるような素晴らしいものになると信じています。



会長代理 吉田 稔 委員

●八重山サンゴ礁保全協議会

石西礁湖自然再生協議会も協議会の形としては、整ってきたと思います。しかし、会の成果や会員同士の連携など、

まだ何も残せていません。まさにこれからが本番、正念場だと思います。今あるいろいろな課題や問題を、協議会委員自身が自分の責任として捉え積極的に行動していくしかありません。私も皆さんの協力を得て全力を尽くして前進あるのみで頑張っていきますので、よろしくお願いします。

Group Discussion

石西礁湖自然再生事業の実施に向けて 第3回 グループディスカッション

「陸域対策グループ」及び「普及啓発グループ」は、自然再生を進めていく指針となる「行動計画」の作成など、各委員が実効ある活動を展開していくための体制づくりについて議論を深めています。一方、「資金メカニズムグループ」では、寄付金に関する細則をはじめ、資金メカニズムの具体的な枠組み等について検討しているところです。

赤土及び栄養塩の流出防止に関する情報交換



①陸域対策グループ(赤土・生活排水等の流入対策)

座長:大見謝辰男(沖縄県八重山支庁八重山福祉保健所 生活環境班長)

- 赤土や栄養塩の流出を抑える手法は多いが、現状ではそれらを農家に普及・実行してもらう技能が未発達。
- 農家を支援するシステム(補助金の導入、対策に要する機械を貸し出しするなど)を構築していくことが必要。
- 地域によっては、赤土等の流出対策をやっていないところもあるため、農家の視点に立った陸域対策の重要性を周知していくことが大切。



行動計画作成に向けたサブチームづくり



②普及啓発グループ(サンゴ礁保全の意識向上・広報啓発)

座長:瀬岡和夫(東京工業大学大学院情報理工学専攻 教授)

今後ますます重要になると考えられるテーマとして、以下の2つのサブチームを設定。
→今後ワークショップを開催する等して、グループ内外で情報交換・議論を行っていく。

観光グループ 新石垣空港の開設に伴う観光客の増加を見据え、観光客及び観光業の方々への意識向上を課題として議論する。

地元コミュニティグループ 赤土や栄養塩等の問題に対して、地元の地域社会、あるいはそれを担う人々に対する普及啓発を課題として議論する。



資金メカニズムの構築に向けた具体策の提案



③資金メカニズムグループ

座長代理:宮本善和(美ら島流域経営・赤土流出抑制システム研究会)

- 寄付金等の運営に関する細則策定について協議会に提案。
- 資金を動かしていくための事務局として、地元企業やNPO法人等への委託について検討。
- 寄付者の対象は、島外からの観光客や企業以外に、地域住民も含むこととし、地元に向けた取組やイベントが必要である。
- 次回協議会までに基金の集め方、事務局の設置、口座の開設について、メンバーリスト等で議論していく。



石西礁湖は いま.....シリーズ⑧



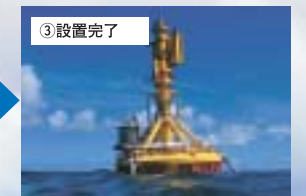
この夏、環境省ではサンゴの生息環境を常時観測するため、石西礁湖(小浜島東側海域)にモニタリングブイを設置いたしました。観測データは1時間毎にモニタリングブイから送信され、インターネットで公開しておりますので、どなたでもご覧いただけます。

【常時モニタリングシステムホームページ】 <http://www.e-monitoring.jp/index.html>

観測データは、普段の海況を示すだけでなく、台風時などに水温が低下したり、波高や濁度が上昇したりという環境変化も克明に捉えています。なお、サンゴ礁保全等に関する種々の調査研究等に役立てるため、ご希望の方に観測データを提供することも可能です。モニタリングブイの愛称も募集しておりますので、皆様からのご連絡・お問い合わせをお待ちしております。

【観測項目】

- ①有義波高 (cm)
- ②有義波周期 (秒)
- ③最大波高 (cm)
- ④流速 (cm/s)
- ⑤流向 (方位)
- ⑥水位 (cm)
- ⑦水温 (℃)
- ⑧塩分 (psu)
- ⑨濁度 (FTU)
- ⑩クロロフィル (µg/l)



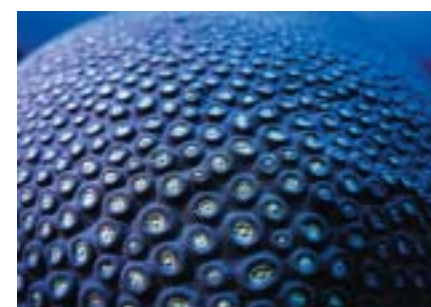
Gallery

石西礁湖ギャラリー



今年6月に開催された「2008 ダイビングフェスタ石垣島」のフォトコンテスト入賞作品のうち、サンゴをテーマにした作品をご紹介します。

提供:八重山ダイビング協会



銀賞 「謎の惑星」 名越綾子様



銅賞 「空と海と珊瑚」 萩原聡様



佳作 「さんごのきもち」 長谷川洋恵様

※このコーナーに掲載する写真を募集しています。簡単なコメントと写真を裏面のお問い合わせ先までお送りください。皆さんのすばらしい写真をお待ちしております。